



2021年3月期 決算短信補足資料

2021年5月13日
日本水産株式会社

コロナ禍により世界的な外食・観光需要減。需要減による水産市況の悪化に加え、国内CVS向け販売減もあり厳しい事業環境だったが、下半期から改善が見られ、当期純利益は前期並みを確保。期末配当は、1円増配し5円50銭（年間配当9円50銭）。

(単位：億円)	2020年 3月期 実績	2021年 3月期 実績	対前期比増減		2021年 3月期 年間計画 (11/5公表)	増減
			▲335	▲4.9		
売上高	6,900	6,564	▲335	▲4.9	6,500	64
営業利益	228	180	▲47	▲20.8	150	30
経常利益	258	227	▲30	▲11.8	185	42
当期 純利益	147	144	▲3	▲2.1	115	29



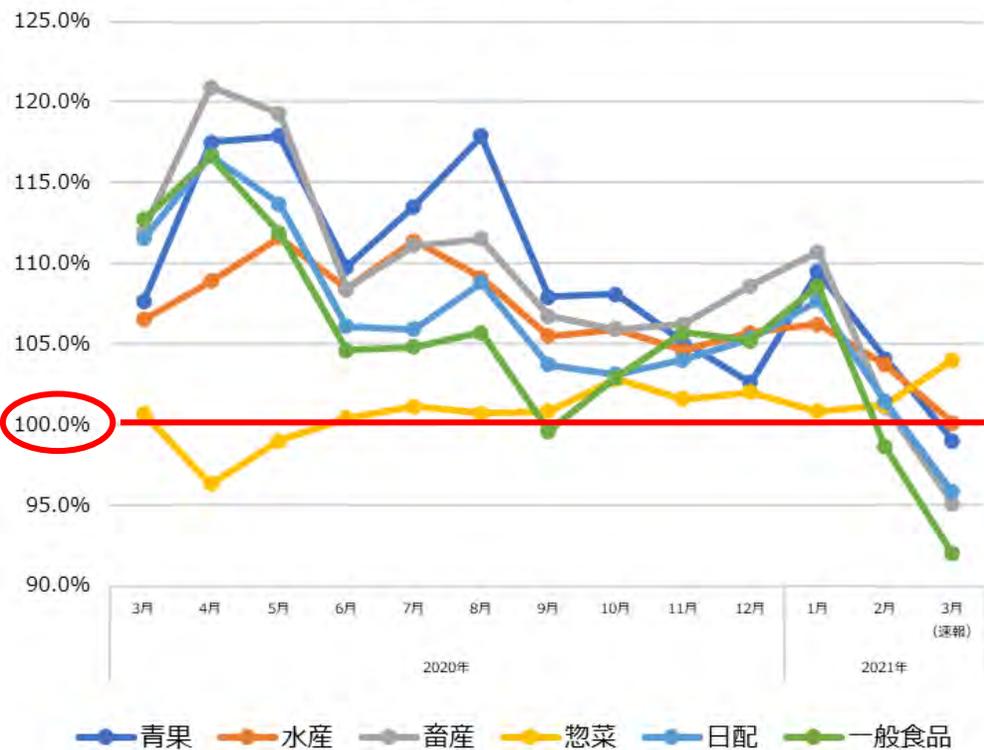
営業利益の前期比は、上半期△37%から下半期△6%まで改善。
 下半期の当期純利益は昨年発生した株価急落による株式減損の影響が無くなり前期比でプラス。

(単位：億円)	2020年 3月期 上半期	2021年 3月期 上半期	対前期上半期比増減		2020年 3月期 下半期	2021年 3月期 下半期	対前期下半期比増減	
				増減率 (%)				増減率 (%)
売上高	3,454	3,208	▲245	▲7.1	3,446	3,356	▲89	▲2.6
営業利益	110	69	▲41	▲37.1	117	111	▲6	▲5.5
経常利益	121	89	▲31	▲26.2	136	137	1	0.9
当期 純利益	78	50	▲27	▲35.7	69	94	24	35.7

下半期（10-3月期） の概況

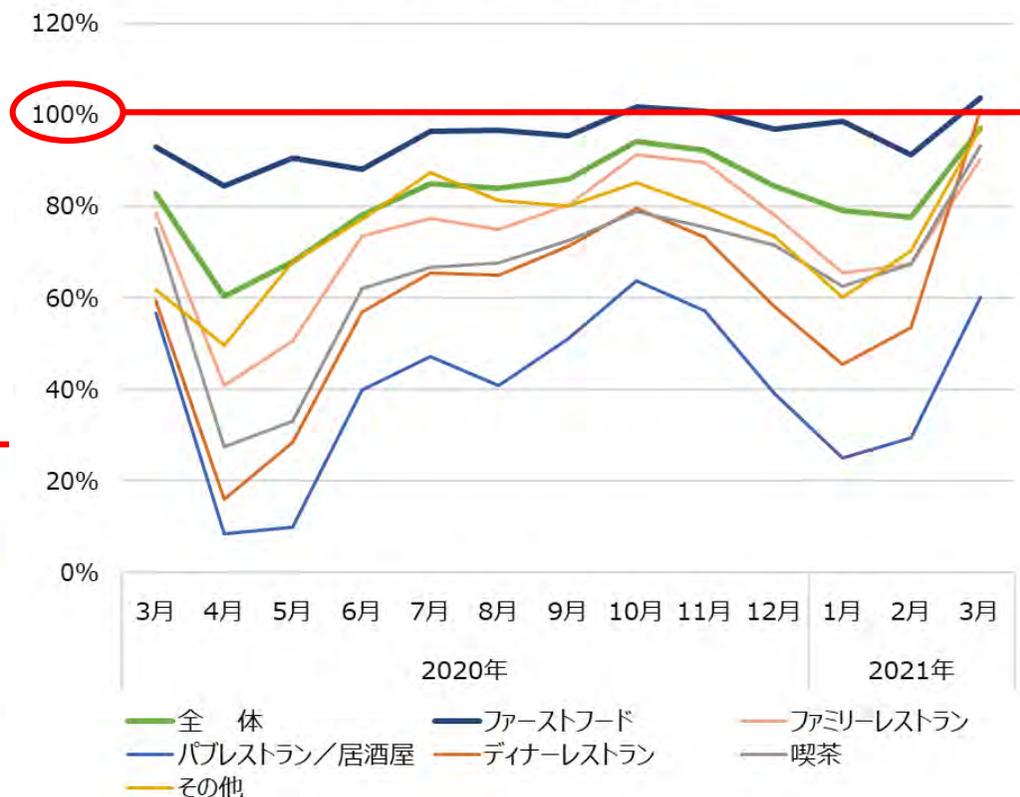
量販店は巣ごもり需要により堅調もコロナ禍の影響が一巡。
一方で業務用は下半期から徐々に改善傾向。

スーパーマーケット販売統計（全店）
売上高前年同月比推移



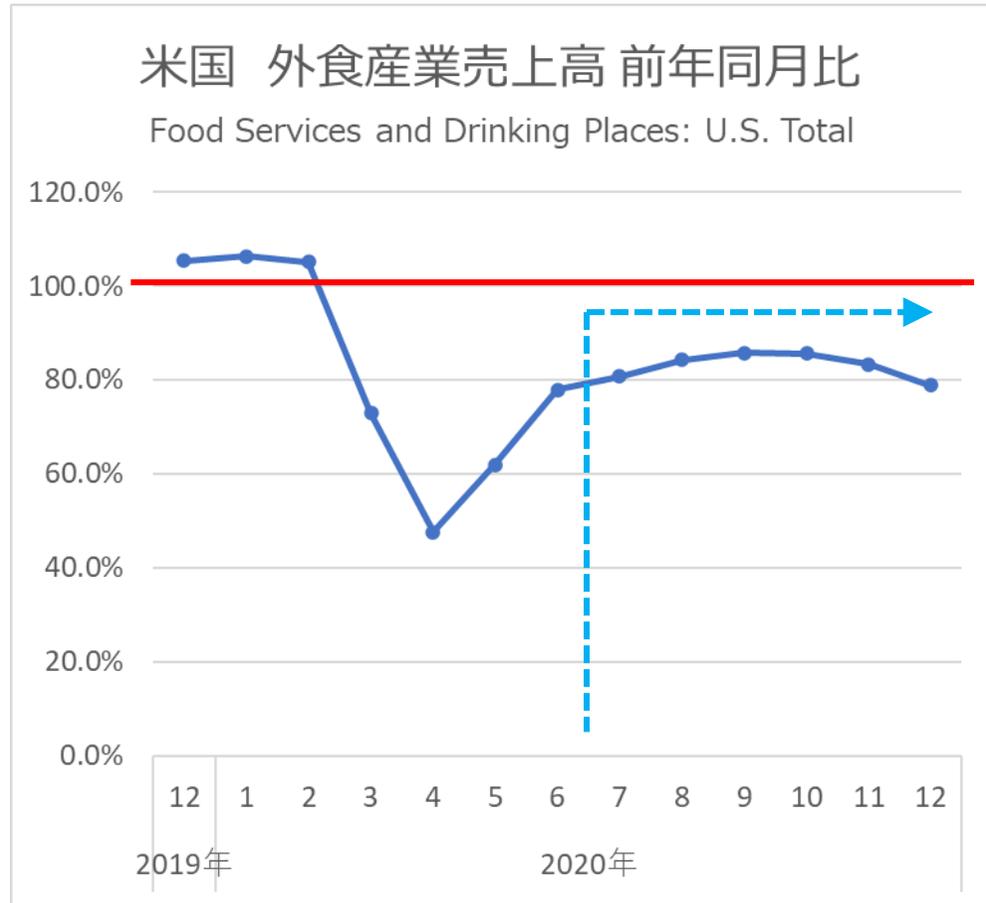
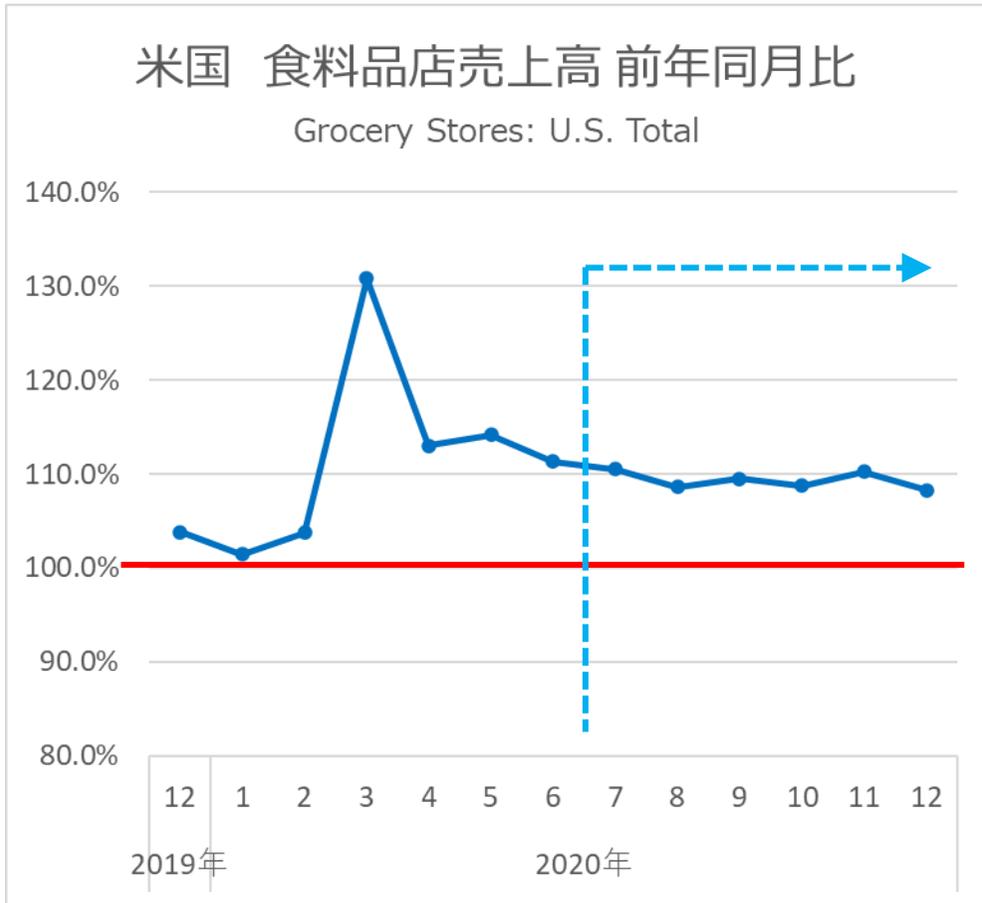
出典：スーパーマーケット販売統計調査
（一社 全国スーパーマーケット協会、一社 日本スーパーマーケット協会、
オール日本スーパーマーケット協会）

日本 外食産業市場動向調査
売上高前年同月比推移



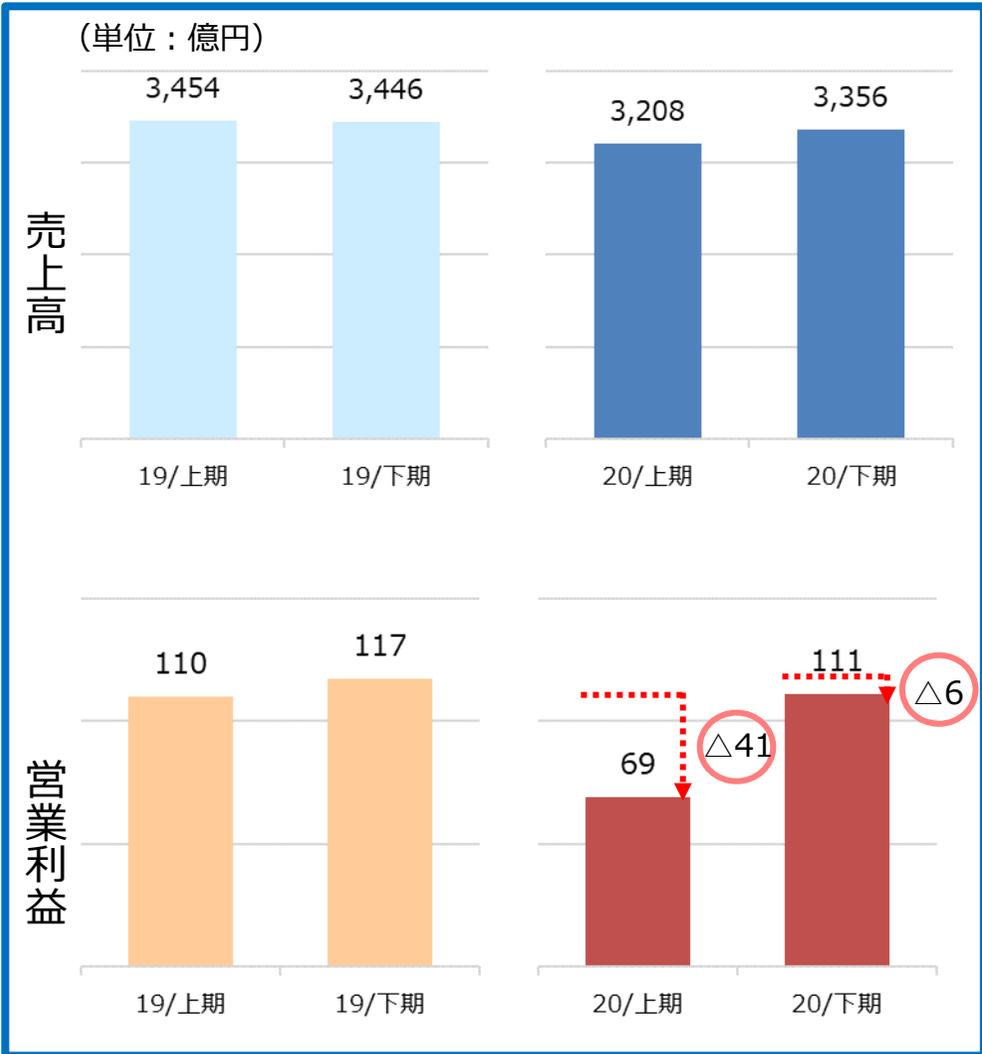
出典：（一社）日本フードサービス協会

米国の量販店は3月から好調を継続。外食産業は上半期後半から回復するも前年には届かない状況が続く。



出典：U.S. Census Bureau.
Advance Monthly Sales for Retail and Food Services

下半期は海外の水産が引き続き苦戦。食品は上半期から続く家庭用の好調に加え、業務用・CVS向けの改善も見られる。



下半期の状況	
国内(10-3月) 共通	上半期まで不調だった業務用・CVS向けが徐々に改善。魚価低迷は継続。
食品	家庭用は冷凍食品を中心に堅調。業務用は改善傾向、CVS向けは経費削減などで収益は前年並み。
水産	家庭内消費が増加し量販店向けの販売が堅調も魚価低迷が続く。
海外(7-12月) 共通	食品は堅調。水産は鮭鱒養殖の減産や白身魚加工の歩留まり悪化で苦戦。
食品 北米・欧州	家庭用は順調な販売により利益を確保。業務用はテイクアウト・デリバリーを中心に好調。
水産 南米	鮭鱒養殖は減産に加え販売価格下落で減収減益。漁業は漁獲の低調により苦戦。
水産 北米	北米加工はすりみ・フィレの販売価格下落、歩留り低下やコロナ関連でのコスト増などにより減益。

年間概況

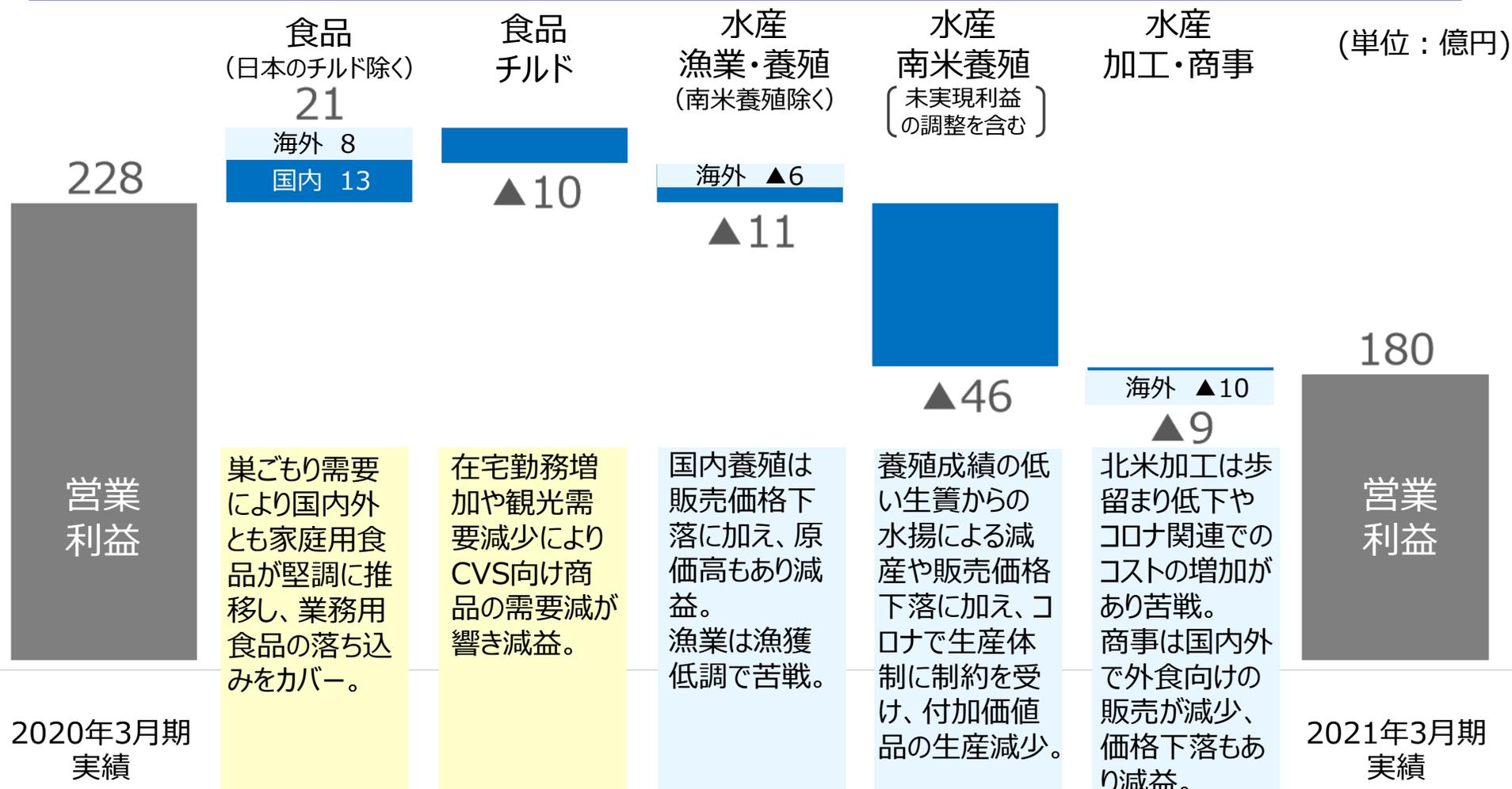
外食・観光需要の減少や需要減による水産市況悪化など、水産事業へのインパクトが大きく、売上高は5%減収、営業利益は21%減益。

(単位：億円)	2020年3月期 実績	2021年3月期 実績	対前期比増減	
			(億円)	率(%)
売上高	6,900	6,564	▲335	▲4.9
水産事業	2,895	2,621	▲274	▲9.5
食品事業	3,372	3,300	▲72	▲2.1
ファインケミカル事業	270	264	▲6	▲2.2
物流事業	165	166	0	0.5
その他	195	212	16	8.6
営業利益	228	180	▲47	▲20.8
水産事業	118	59	▲58	▲49.5
食品事業	127	140	12	9.7
ファインケミカル事業	25	23	▲2	▲7.8
物流事業	19	22	2	10.9
その他	4	7	3	77.7
全社経費	▲67	▲72	▲4	6.9
経常利益	258	227	▲30	▲11.8
親会社株主に帰属する当期純利益	147	144	▲3	▲2.1

主な営業利益増減要因(前期比)



食品は国内外とも好調もCVS向け販売が苦戦。水産は魚価低迷に加え、南米鮭鱒養殖事業の減産、国内養殖事業の原価高もあり減益。



自己資本比率が35%を超え財務体質強化が進んだ。

() 内の数字は前期末比増減

(単位:億円)

流動資産		2,317	(▲213)	流動負債	1,534	(▲434)
現金及び預金	109	(▲163)	支払手形及び買掛金	416	(+61)	
受取手形及び売掛金	770	(▲28)	短期借入金	685	(▲522)	
棚卸資産(在庫)	1,279	(▲31)	未払費用	230	(▲1)	
固定資産		2,436	(+52)	固定負債	1,340	(+116)
有形固定資産	1,474	(▲6)	長期借入金	1,122	(+118)	
無形固定資産	97	(▲5)	純資産	1,879	(+156)	
投資その他の資産	864	(+64)	自己資本	1,695	(+164)	
総資産	4,754	(▲161)	自己資本比率			
			'20/3	31.2%	⇒	'21/03 35.7%

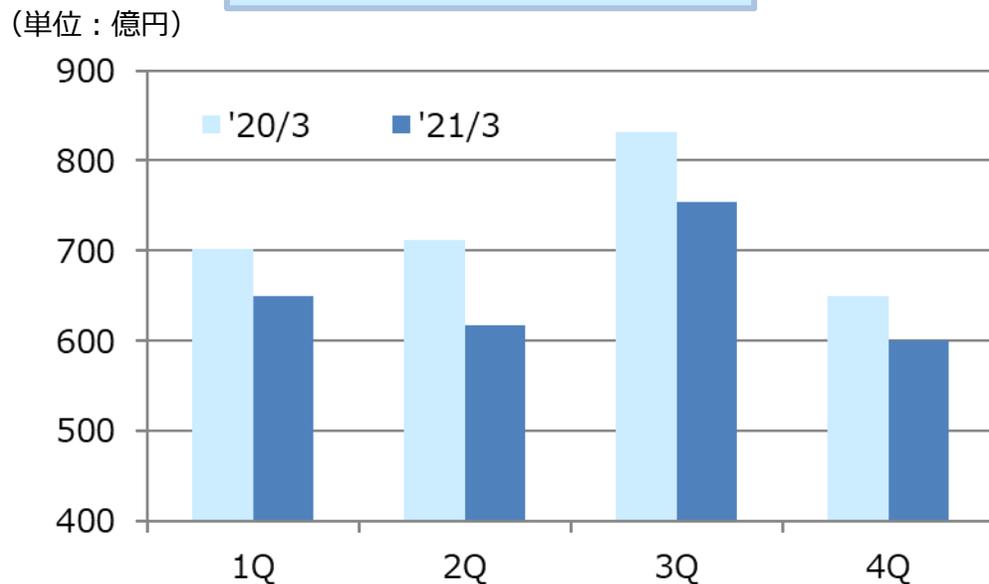
営業CFが大きく改善

(単位:億円)	2020年3月期 実績	2021年3月期 実績	増減
・税金等調整前当期純利益	226	225	▲ 1
・減価償却費 (のれん償却含む)	197	198	1
・運転資本	▲ 120	98	218
・法人税等の支払額	▲ 80	▲ 38	42
・その他	▲ 34	▲ 25	9
営業活動によるCF	187	459	271
・設備投資額 (固定資産取得額)	▲ 285	▲ 242	43
・その他	▲ 8	62	70
投資活動によるCF	▲ 294	▲ 180	114
・短期借入金の増減額	187	▲ 492	▲ 680
・長期借入金の増減額	114	91	▲ 23
・その他	▲ 43	▲ 46	▲ 3
財務活動によるCF	259	▲ 447	▲ 707
現金及び現金同等物の期末残高	316	147	

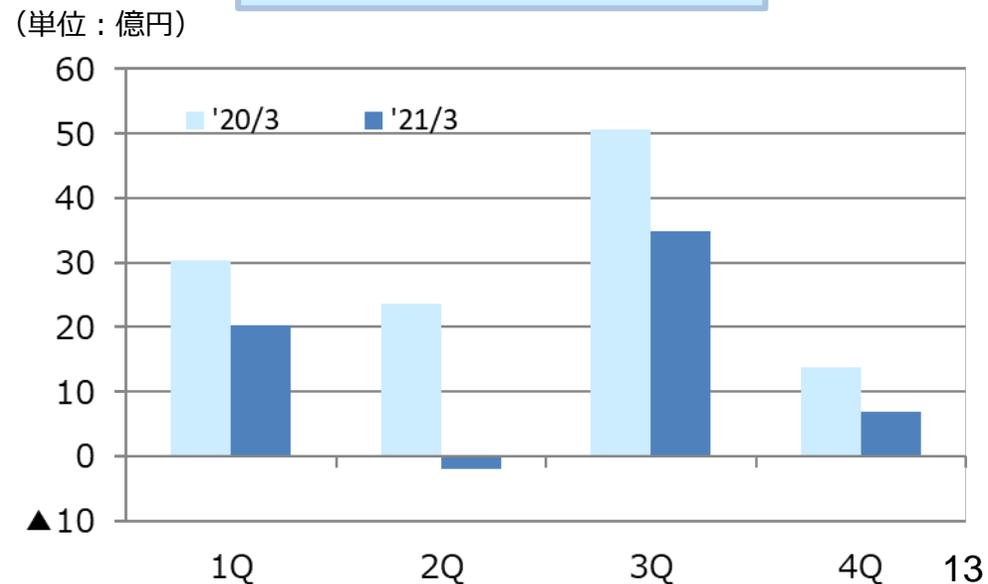
新型コロナウイルスによる水産物の需要減と販売価格下落、南米鮭鱒養殖の減産などの影響を受け減収・減益。

(単位：億円)	2020年3月期 実績	2021年3月期 実績	対前期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	2,895	2,621	▲274	▲9.5
営業利益	118	59	▲58	▲49.5

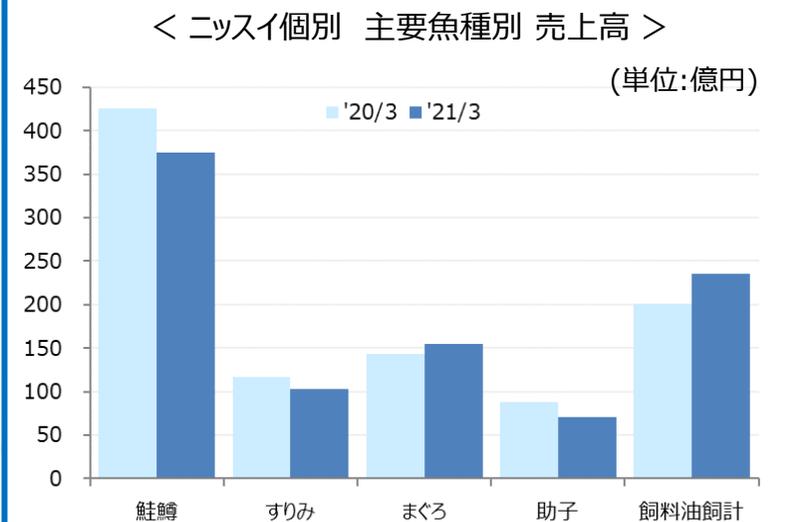
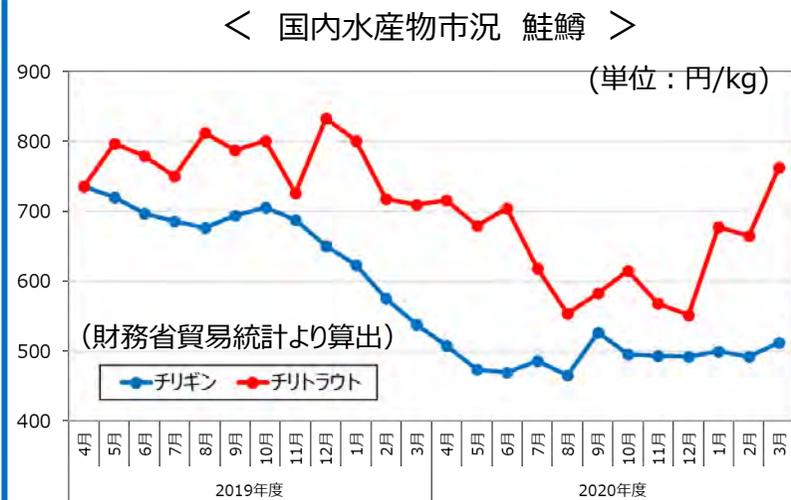
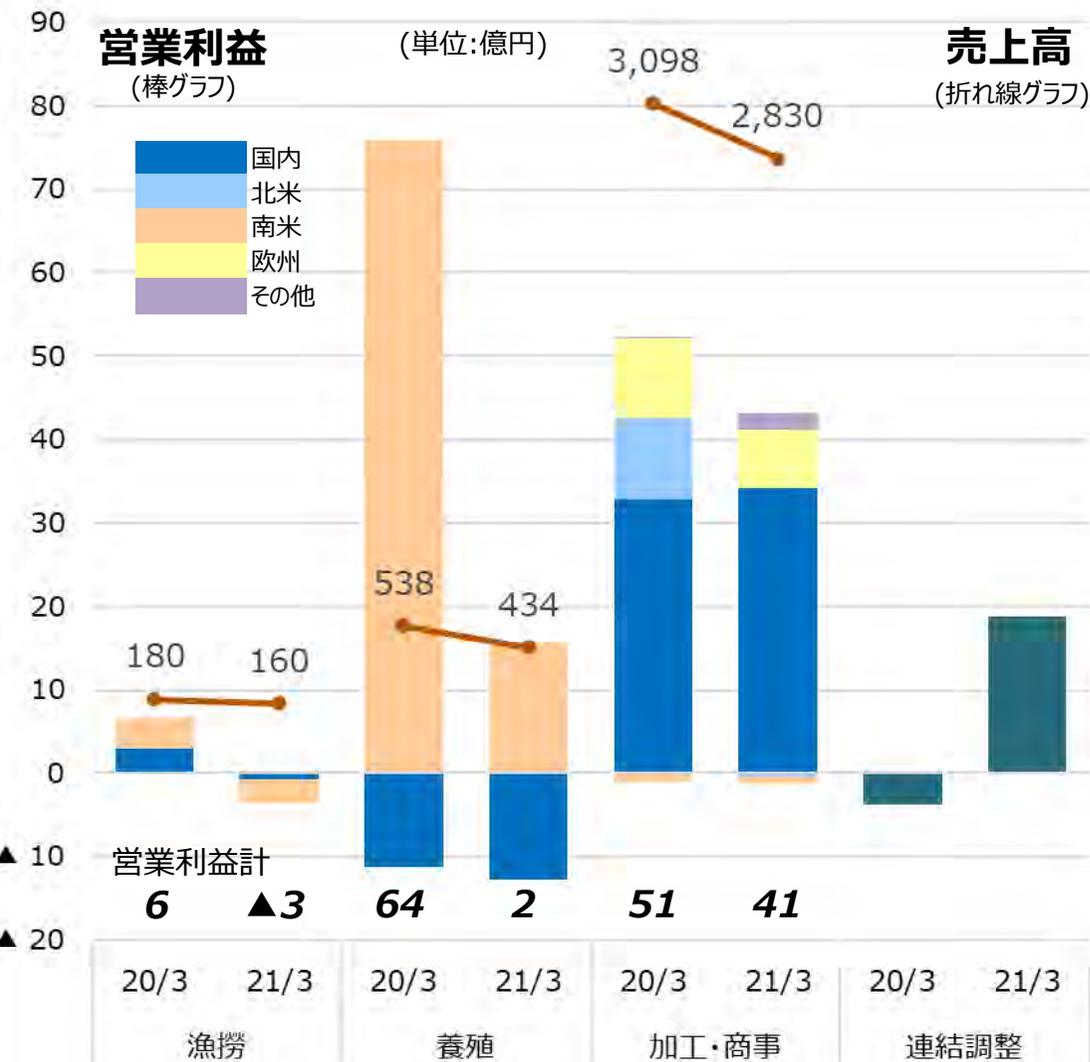
売上高 (四半期別)



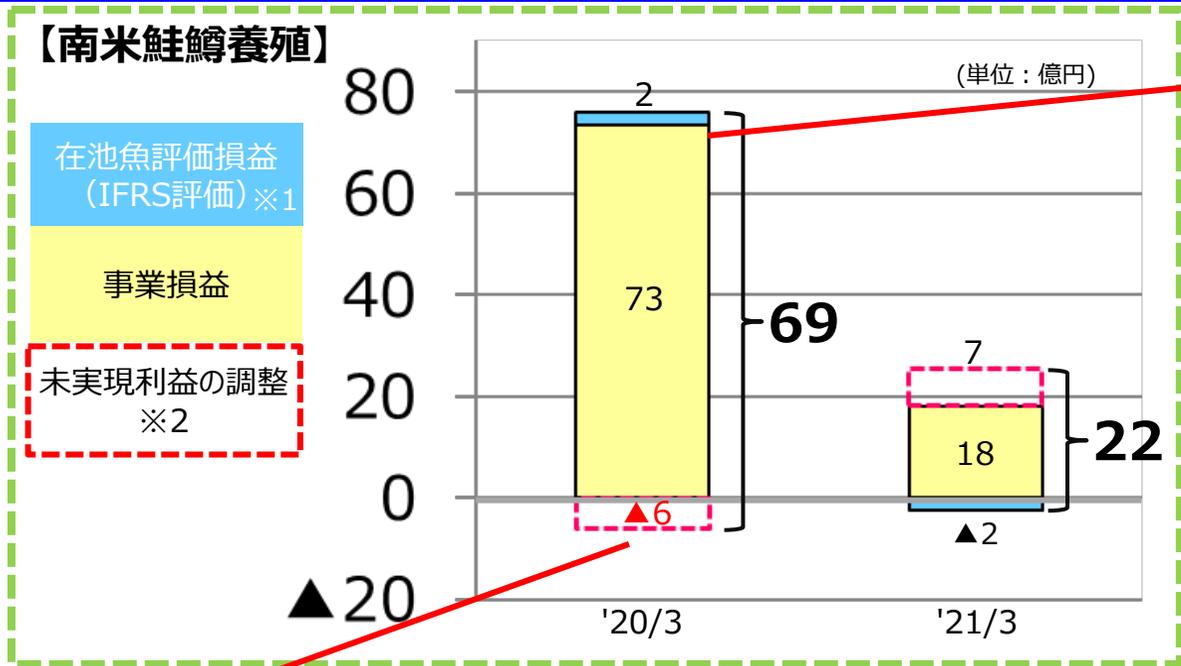
営業利益 (四半期別)



漁業・養殖は減産や価格低迷などが重なり大苦戦。加工は北米でコロナ対策や原料の小型化等によるコスト増と歩留まり低下が響き減益。



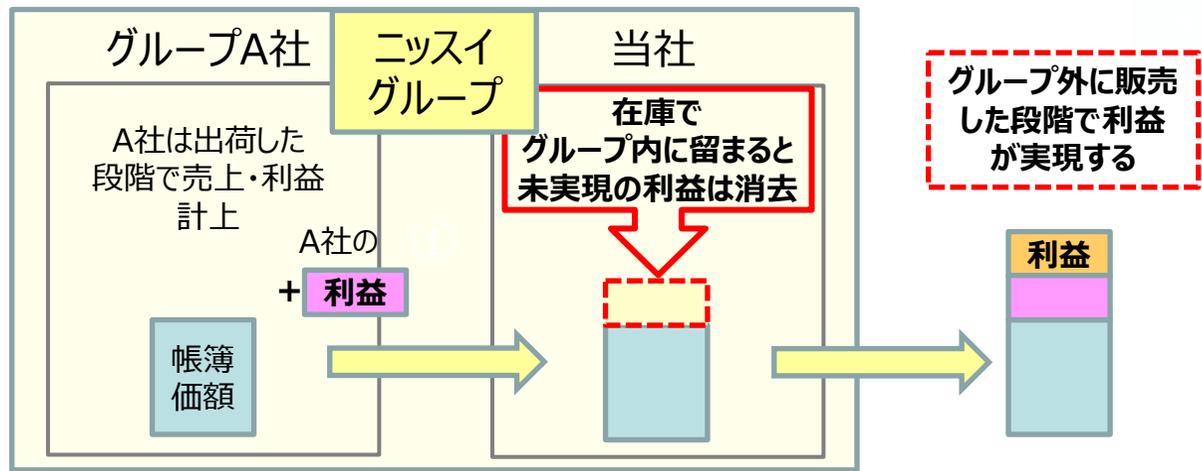
南米鮭鱒養殖の実質的な損益は前期比46億円の減益



※1 在池魚評価損益
生簀にいる出荷前の魚（在池魚）
について出荷想定価格による評価を
実施



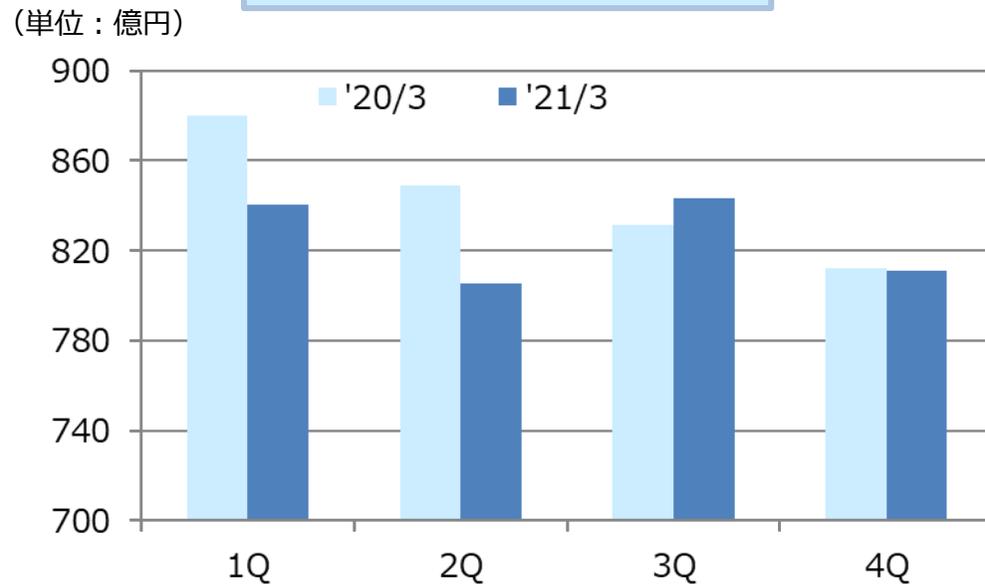
※2 在庫に含まれる
未実現利益の調整



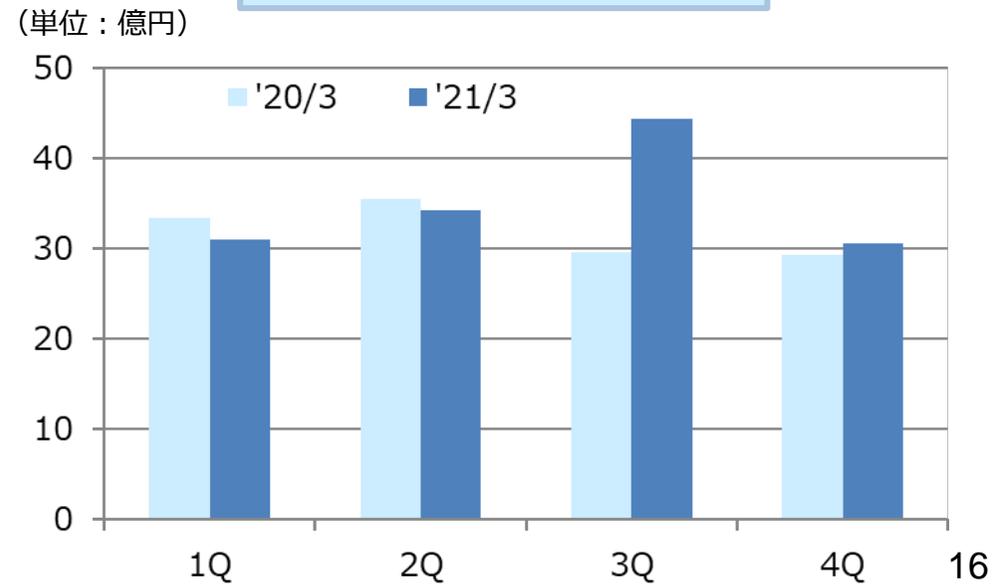
家庭用が堅調に推移し業務用をカバー。
業務用やCVS向け商品の販売は上半期苦戦も下半期は回復傾向。

(単位：億円)	2020年3月期 実績	2021年3月期 実績	対前期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	3,372	3,300	▲72	▲2.1
営業利益	127	140	12	9.7

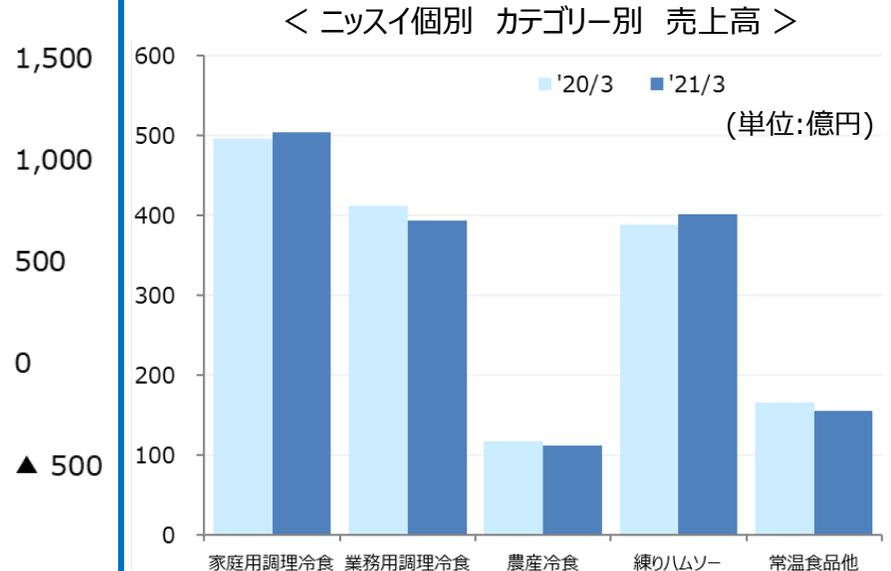
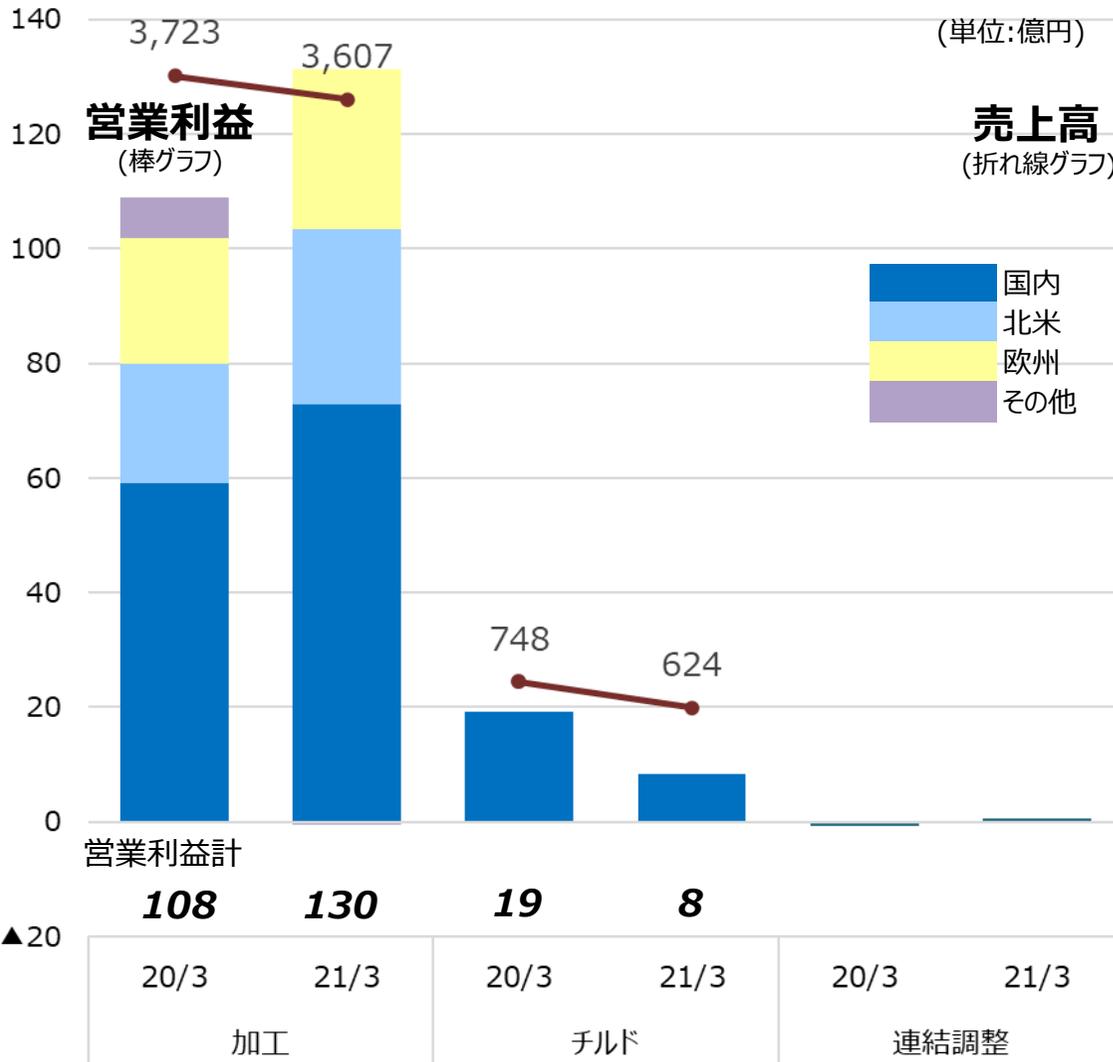
売上高 (四半期別)



営業利益 (四半期別)



国内外とも量販店向けの冷凍食品販売が好調。チルド事業は米飯やサラダ・惣菜類などの数量減が響き減収・減益。

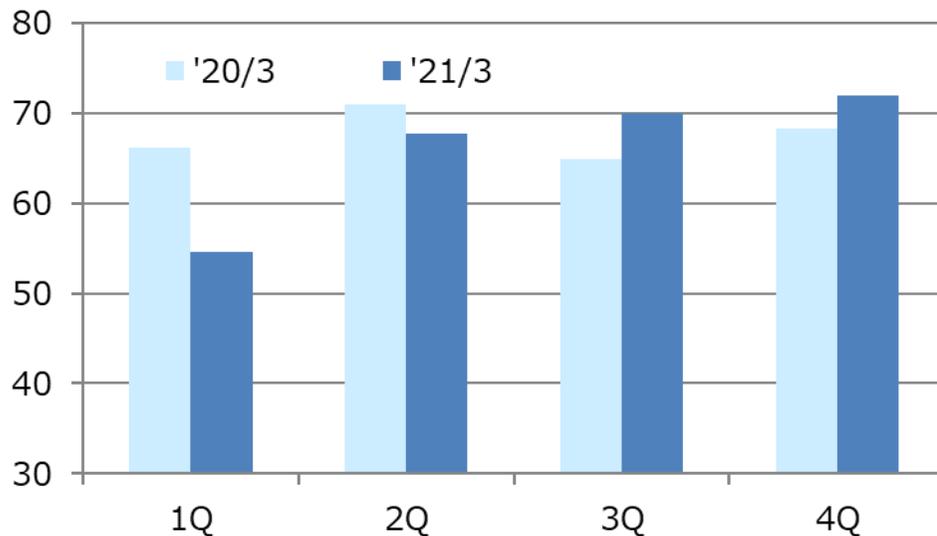


機能性原料・機能性食品の販売は堅調に推移したが、医薬原料の販売減少や医薬品販売会社の売却などもあり減益。

(単位：億円)	2020年3月期 実績	2021年3月期 実績	対前期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	270	264	▲6	▲2.2
営業利益	25	23	▲2	▲7.8

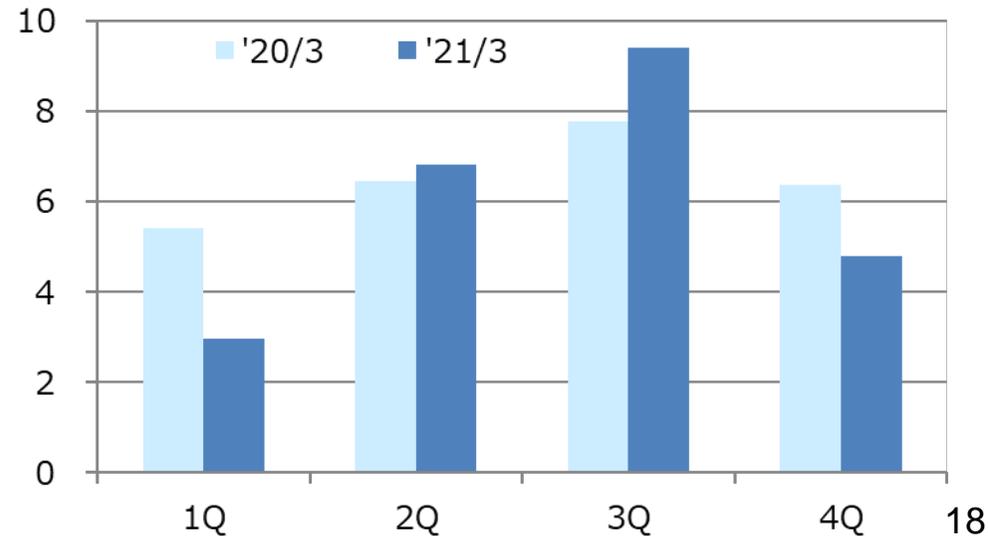
売上高 (四半期別)

(単位：億円)



営業利益 (四半期別)

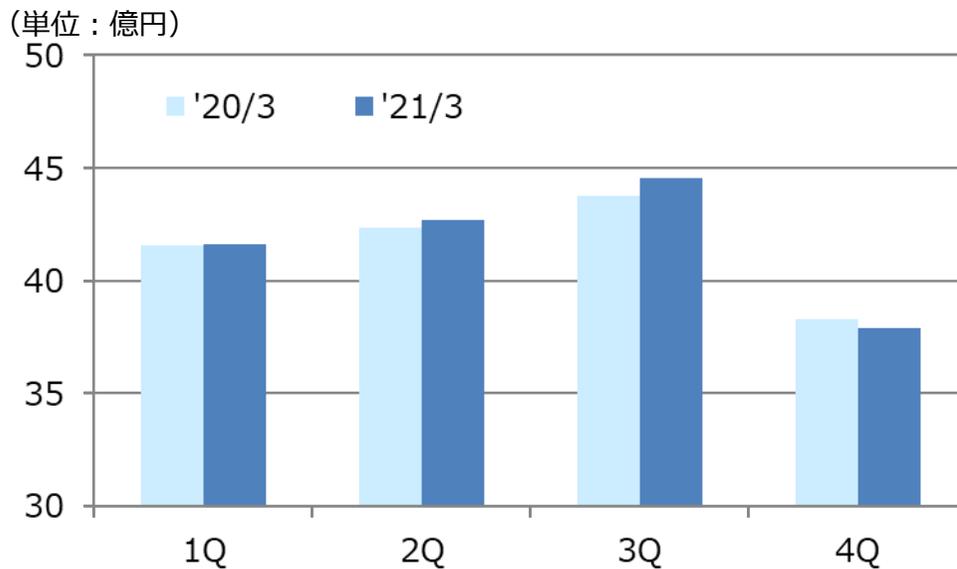
(単位：億円)



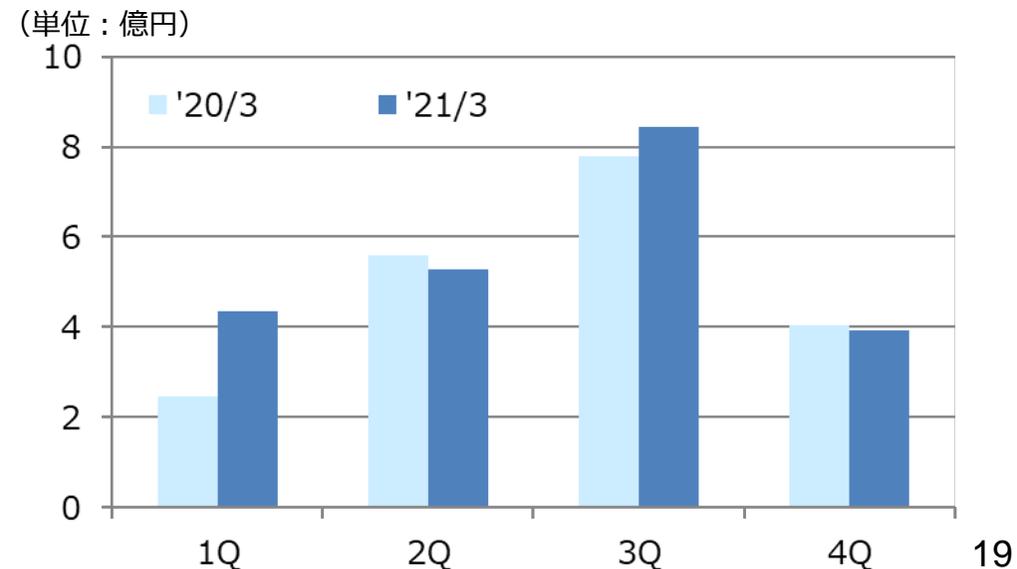
業務用顧客の荷動き低迷や在庫減少が続くが、大阪舞洲物流センター2号棟の新規稼働や経費削減効果もあり増収・増益。

(単位：億円)	2020年3月期 実績	2021年3月期 実績	対前期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	165	166	0	0.5
営業利益	19	22	2	10.9

売上高 (四半期別)



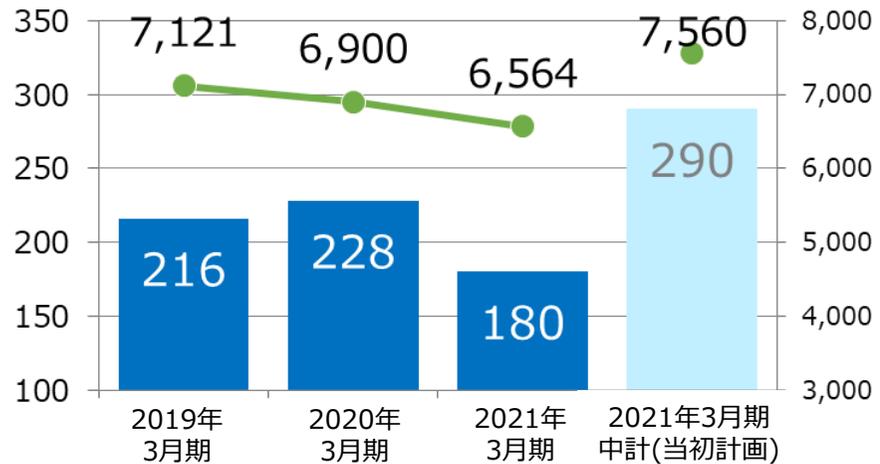
営業利益 (四半期別)



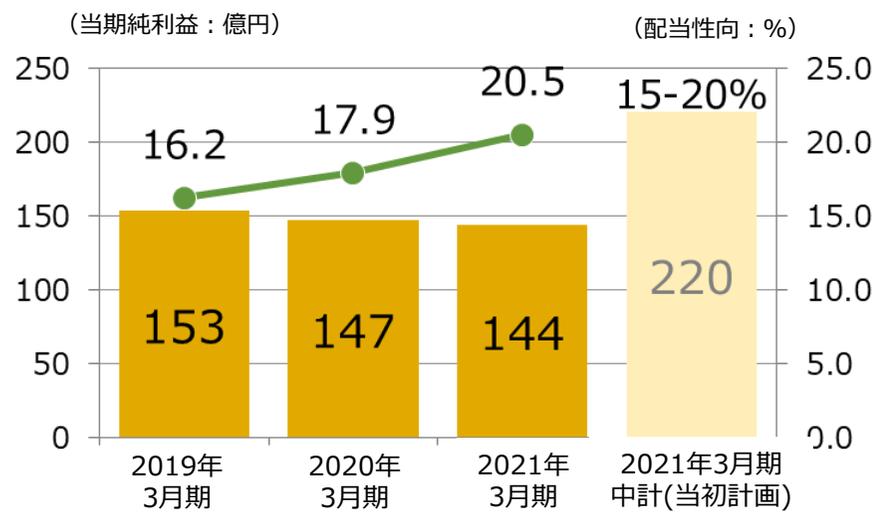
中期経営計画 MVIP+(プラス)2020総括

欧州は生産・販売拠点を拡大し伸長するとともに、タイではファストフード向け生産工場を刷新。一方、国内養殖・ファインケミカル・チルド事業は課題が残る結果となった。配当性向は20%を達成。

売上高・営業利益



当期純利益・配当性向



・欧州事業の拡大



イギリス: 鮮魚加工会社買収。冷凍食品と水産加工に機能を切り分け効率的な事業体制を構築



フランス: えび加工品など商品カテゴリーを拡大、生産体制の再編・拡大

・タイで食品加工工場を刷新



クイックサービスレストランやファストフードマーケットへの展開強化

事業を通じた社会課題解決の取組みとして、養殖の高度化（陸上養殖／DX）への挑戦を継続、働き方改革や健康経営も一定の成果。

環境負荷軽減に対応した陸上養殖の取組み



マサバ循環式陸上養殖

バナメイエビ閉鎖循環式養殖

アトランティックサーモン閉鎖循環式養殖(デンマーク)

AI・IoTの活用



画像解析技術による尾数計測

経済産業省による「健康経営銘柄」に3年連続受賞



事業の柱である魚やEPA(エイコサペンタエン酸)を活用した従業員の健康づくりを推進していること、禁煙対策や健康UPセミナーの開催など、コロナ禍における心身の健康に積極的にフォローしたことが評価された。

【健康経営の取組み】

- EPA/AA比の活用
- 禁煙支援
- 健康+（プラス）ストレージキャンペーン
- カフェテリアプラン「Nカフェ」の導入
- テレワーク勤務制度の導入



1日10,000歩



魚中心の食生活

2022年3月期 計画

次年度は体質強化の1年とし、弱点を克服するとともに強みを強化し、次期中期経営計画に繋げる。
世界経済の正常化には時間を要すると考えられるためリスクを一定程度折り込んだ計画とする。配当は据え置き。

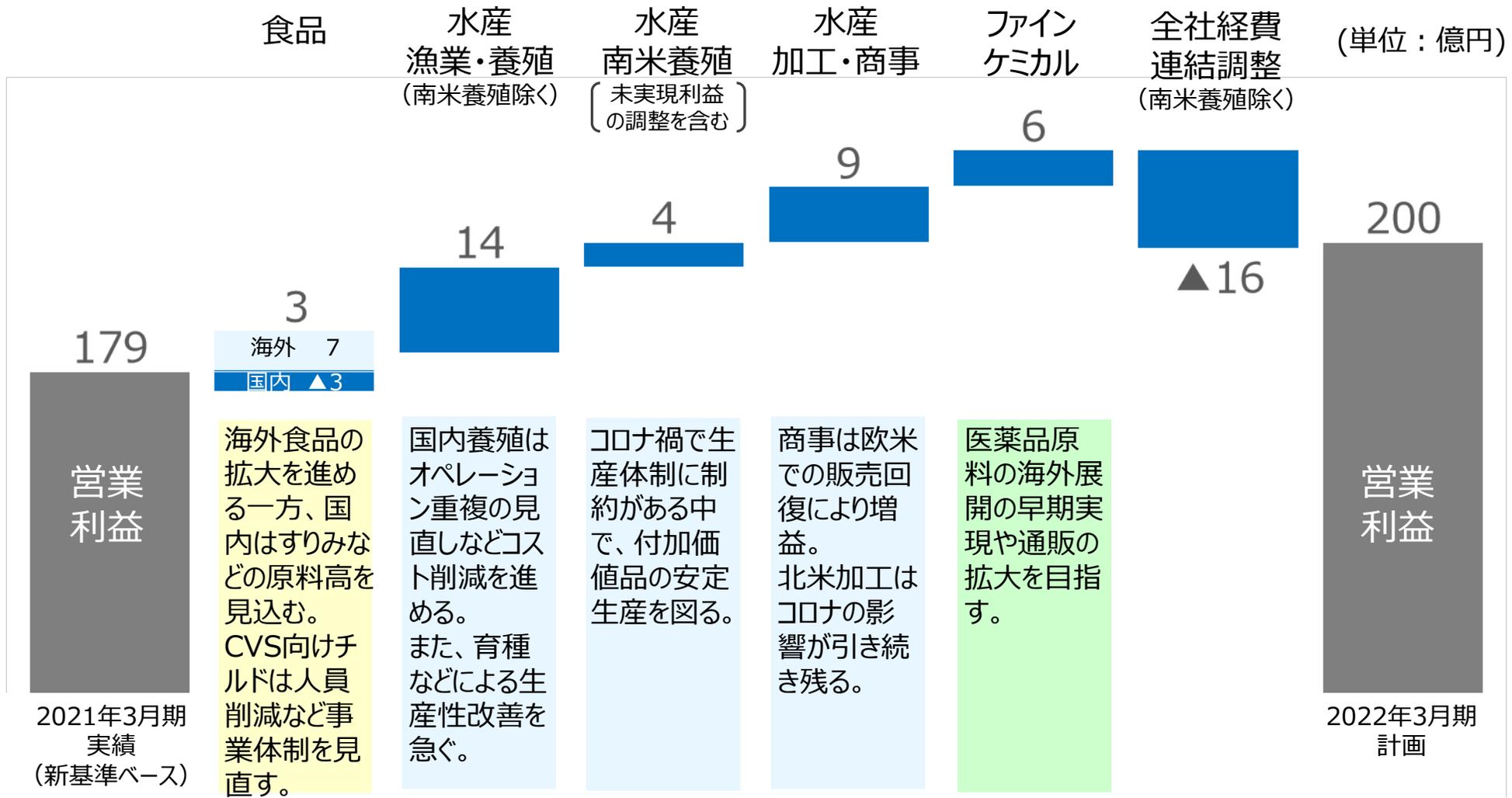
	2021年3月期 実績(注1) (新基準ベース)	2022年3月期 年間計画(注1) (新基準ベース)	対前期比		2021年3月期 実績 (旧基準ベース)	対新基準比 増減(注2)
			増減	増減率(%)		
売上高	6,148 億円	6,420 億円	271 億円	4.4	6,564 億円	▲416 億円
営業利益	179 億円	200 億円	20 億円	11.3	180 億円	▲1 億円
経常利益	226 億円	230 億円	3 億円	1.6	227 億円	▲1 億円
当期 純利益	143 億円	150 億円	6 億円	4.4	144 億円	▲0 億円

(注1) 2022年3月期の期首より「収益認識に関する会計基準」等を適用しております。
上記の2022年3月期連結業績予想及び2021年3月期実績は当該会計基準等を適用した金額となっております。

(注2) 新基準と旧基準の差は、販売費としていたりべト等の顧客に支払う対価を売上高から控除したことなどによります。

主な営業利益増減要因(新基準比)

国内養殖・チルド事業の改善効果と、南米鮭鱒養殖の回復、ワクチン接種が進む海外の拡大を見込む。



養殖事業の拡大とサステナビリティのバランスを追求

日本 フィジビリティスタディにより、将来の成長戦略を構築

ヨーロッパ アトランティックサーモン養殖

閉鎖循環式陸上養殖の安定供給



バナメイエビ閉鎖循環式養殖

サーモン養殖事業化試験



マサバ循環式陸上養殖

黒瀬水産ブリ養殖



ブリの輸出拡大に向けた事業成長戦略



南米 トラウトサーモン養殖

養殖サーモン事業の収益安定及び最大化



グローバルに広がる、即食/簡便ニーズや健康志向に対応

代替肉マーケットへのチャレンジ

米国でも代替肉市場拡大中
北米食品会社での販売検討



イメージ

ニッスイのR&D部門と協働
販路拡大を目指す



健康訴求商品群の強化

食スタイル変化への対応



野菜健康意識の高まりによるヘルシー料理の需要拡大に対応



アジアでのクイックサービスレストラン・CVSマーケットへの展開を強化



健康訴求商品群の強化



家庭で本格的な味わいが楽しめる製品

簡単調理商品を様々な業態向けに展開

今後の取組み: Eコマースビジネス(日本)

各事業を融合し、全温度帯の食材・健康食品をEコマースで提供

「買い物難民」「外出自粛」などの課題解決に、Eコマース事業の拡大で対応。

モール型ショップと自社通販サイトで分かれていた体制を統合・効率化。品揃えを強化する。

オペレーション業務の共通化、システム効率化などによりコストダウンを図り収益改善

コロナ禍や少子高齢化などの社会課題に対し、食の総合提案や健康な生活を提供する。



従来、自社通販サイトでしか販売していなかった商品をモール型ショップでも展開

事業を通じて社会課題解決に取り組む、持続可能な社会の構築と企業価値向上を目指す。

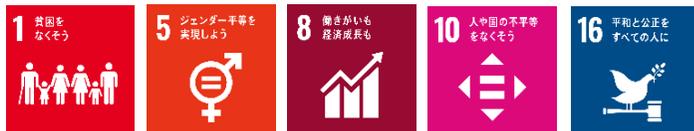
2021年度の重点取組みテーマ

- ・水産資源の持続性を考慮した事業構築と調達
- ・水産物のトレーサビリティ確保の方法検討



持続可能な水産事業の構築
バリューチェーン全体の人権尊重

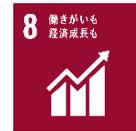
- ・人権尊重を推進する体制の構築、従業員の理解促進と意識向上
- ・人権デューデリジェンスの実施



- ・CO2排出量削減の具体的目標設定
- ・気候変動のリスクと機会抽出・情報開示



CO2排出量削減
ダイバーシティ推進



30% Club Japanへの参加を通じ、女性活躍先進企業の取組みを参考にし、具体的な目標を設定



先の読み難い環境が続きますが、
成長に向け、しっかりと体質強化に
取り組む1年とします。

参考資料

連結損益計算書(前期比)



(単位：億円)	2020年3月期 実績	2021年3月期 実績	増減	主な増減要因
売上高	6,900	6,564	▲ 335	
売上総利益	1,337	1,271	▲ 66	
販売費・一般管理費	1,109	1,090	▲ 18	
営業利益	228	180	▲ 47	
営業外収益	51	61	9	補助金収入+5
営業外費用	21	14	▲ 7	支払利息▲3
経常利益	258	227	▲ 30	
特別利益	2	22	19	投資有価証券売却益+18
特別損失	34	24	▲ 9	投資有価証券評価損▲16 災害による損失+5
税金等調整前当期純利益	226	225	▲ 1	
法人税等	69	66	▲ 3	
法人税等調整額	3	7	3	
当期純利益	152	152	▲ 0	
非支配株主に帰属する 当期純利益	5	7	2	
親会社株主に帰属する 当期純利益	147	144	▲ 3	

為替換算による影響額(売上高)、為替レート



主要在外会社の 為替換算レート	2020年3月期 実績		2021年3月期 実績		前期比増減		増減内訳(億円)	
	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	為替影響
USD(百万ドル)	1,261	1,378	1,179	1,255	▲82	▲122	▲89	▲32
EUR(百万ユーロ)	304	371	331	405	27	33	33	0
DKK(百万クローネ)	2,924	478	2,665	436	▲258	▲41	▲42	0
その他通貨	—	231	—	210	—	▲21	▲15	▲5
計		2,459		2,308		▲151	▲114	▲36

【参考：為替レート】

	2020年3月期 第4四半期	2021年3月期 第4四半期	変動率
米ドル (USD)	109.33円	104.00円	▲4.9%
ユーロ (EUR)	121.53円	124.49円	2.4%
デンマーククローネ (DKK)	16.26円	16.73円	2.8%

※右表の為替レートは
第4四半期の平均

セグメントマトリックス 売上高(前期比)



(単位:億円)

	日本	北米	南米	アジア	ヨーロッパ	仮計	連結調整	連結 計
水産事業	2,219 (▲208)	433 (▲36)	216 (▲102)	61 (▲11)	494 (▲32)	3,425 (▲392)	▲804 (117)	2,621 (▲274)
	2,428	469	319	73	527	3,818	▲922	2,895
食品事業	3,136 (▲271)	605 (16)		51 (▲20)	438 (36)	4,231 (▲239)	▲931 (167)	3,300 (▲72)
	3,407	589		72	401	4,471	▲1,098	3,372
ファイン 事業	289 (▲4)			5 (0)		294 (▲4)	▲30 (▲1)	264 (▲6)
	293			4		298	▲28	270
物流事業	322 (▲0)					322 (▲0)	▲156 (1)	166 (0)
	323					323	▲157	165
その他 事業	280 (▲20)			1 (▲0)		282 (▲20)	▲70 (37)	212 (16)
	301			1		303	▲107	195
仮計	6,248 (▲506)	1,039 (▲20)	216 (▲102)	120 (▲32)	933 (3)	8,557 (▲657)		
	6,755	1,059	319	152	929	9,214		
連結調整	▲1,589 (213)	▲146 (10)	▲158 (64)	▲85 (30)	▲11 (2)		▲1,992 (322)	
	▲1,803	▲157	▲223	▲116	▲14		▲2,314	
連結 計	4,659 (▲292)	892 (▲9)	57 (▲37)	34 (▲1)	921 (6)			6,564 (▲335)
	4,951	901	95	36	915			6,900

※上段は当期累計実績、下段は前期累計実績、右肩括弧内は増減を表わす。

※連結調整にはグループ間取引による売上高消去が含まれる。

セグメントマトリックス 営業利益(前期比)



(単位:億円)

	日本	北米	南米	アジア	ヨーロッパ	全社経費	仮計	連結調整	連結計	営業利益率(%)
水産事業	20 (▲3)	▲0 (▲10)	11 (▲66)	2 (2)	6 (▲2)		41 (▲81)	18 (22)	59 (▲58)	2.3 (▲1.8)
	24	9	78	0	9		122	▲3	118	4.1
食品事業	81 (2)	30 (9)		▲0 (▲7)	28 (6)		139 (11)	0 (1)	140 (12)	4.2 (0.5)
	78	20		7	21		128	▲0	127	3.8
ファイン事業	22 (▲2)			0 (▲0)			23 (▲2)	0 (0)	23 (▲2)	9.1 (▲0.5)
	24			0			25	0	25	9.6
物流事業	22 (3)						22 (3)	▲0 (▲0)	22 (2)	13.2 (1.2)
	19						19	0	19	12.0
その他事業	6 (1)			0 (0)			7 (2)	0 (1)	7 (3)	3.5 (1.3)
	4			0			5	▲0	4	2.1
全社経費						▲72 (▲4)	▲72 (▲4)	0 (0)	▲72 (▲4)	
						▲67	▲67	0	▲67	
仮計	153 (2)	30 (▲0)	11 (▲66)	2 (▲5)	34 (3)	▲72 (▲4)	160 (▲71)			
	151	30	78	8	31	▲67	232			
連結調整	11 (6)	2 (1)	7 (14)	0 (1)	▲2 (0)	▲0 (0)		20 (24)		
	5	1	▲6	▲0	▲3	▲0		▲4		
連結計	165 (8)	32 (0)	19 (▲52)	3 (▲3)	32 (3)	▲73 (▲4)			180 (▲47)	2.8 (▲0.6)
	157	31	72	7	28	▲68			228	3.3

※上段は当期累計実績、下段は前期累計実績、右肩括弧内は増減を表わす。

※連結調整にはのれん償却、たな卸資産の未実現利益消去等が含まれる。

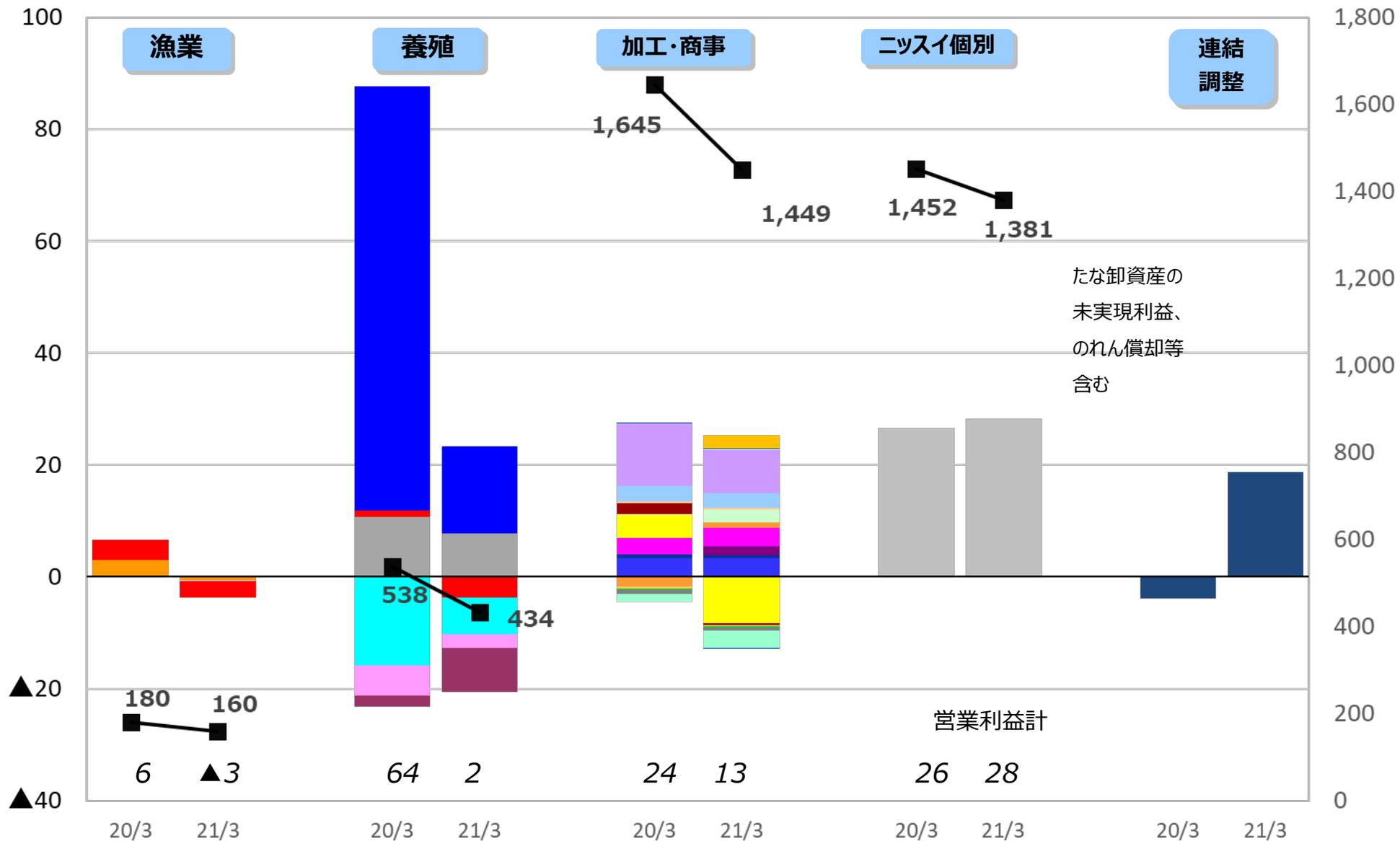
水産事業 売上高・営業利益(前期比)



営業利益 (棒グラフ)

(単位:億円)

売上高 (折れ線グラフ)



※グラフ下部の斜体数値は機能別営業利益合計数値

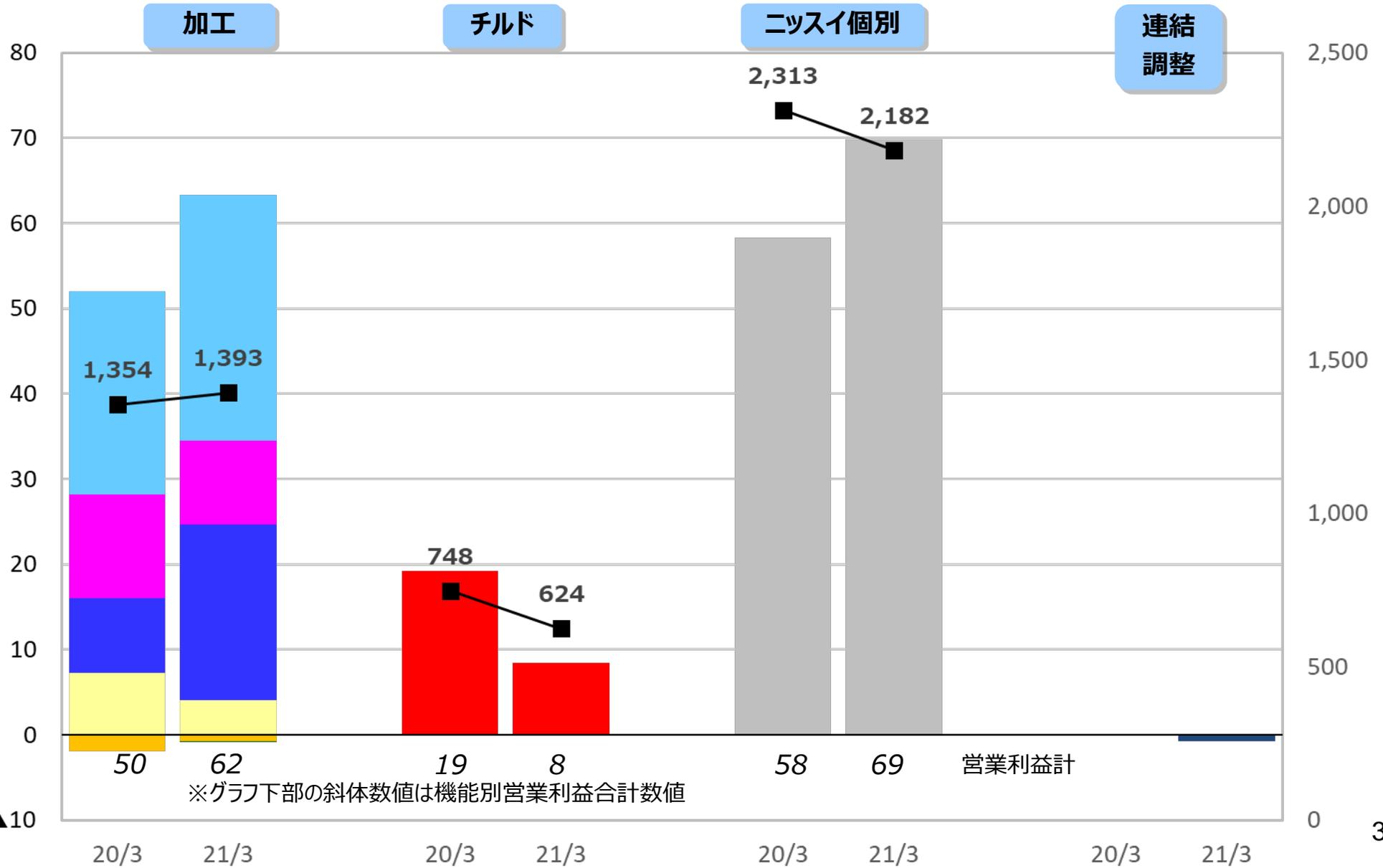
食品事業 売上高・営業利益(前期比)



営業利益 (棒グラフ)

(単位:億円)

売上高 (折れ線グラフ)



本資料に記載されている、当期ならびに将来の業績に関する見通し等は、現在入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したものであり、これらの達成を保証するものではありません。

実際の業績は、様々な要因により、見通し等とは大きく異なることがあります。その要因としては、市場の経済状況および製品の需要の変動、為替相場の変動、国内外の各種制度や法律の改定などが含まれます。

従いまして、本資料の利用は、利用者の判断によって行いますようお願い致します。本資料の利用によって生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではないことをご認識頂きますようお願い申し上げます。

日本水産株式会社

2021年5月13日

証券コード：1332

お問合せ先：経営企画IR部経営企画IR課

03-6206-7037

<https://www.nissui.co.jp/ir/index.html>

